



インテリアと共存する北欧住宅

Akatuki House -B

息子世帯は母の世帯の気配を感じながら通り庭を抜けアプローチします。玄関という場を設けていない我が家は玄関扉を開けるとすぐに生活空間が広がっています。

これは廊下を無くし、限られた100㎡以下という面積を無駄なく利用する為の工夫でもあるのですが、外部に門扉をつけることで他人との距離を取りながら家族との距離を縮める事に繋がっています。

家族のコミュニケーションは玄関から始まります。靴を脱ぐ・履くという内外の切り替えの瞬間は感情が表に出やすく、家族の体調や悩みなど顔色を伺える貴重な「立ち止りの場」だと思ふのです。その瞬間を家族で共有したいと思う気持ちを具現化しています。

ダイニング・キッチンより低くなったりリビングエリアは地に足のつく安堵感がある一方、天井高さ3mの空間が開放感を与えてくれます。

キッチンからはダイニングテーブル、ソファに腰掛ける家族と視線が合うように計算されています。もちろん外部からの視線を遮りながら採光と通風も考えています。

これから子育て期に突入する我が家は、いかに建物を通じて家族の結びつきを考えるかが平面計画の重要な要素となっています。リビングに面する書斎や、子供部屋近くのライブラリーなど、子育てに対する思想に基づいたアイデアを要所要所に盛り込んでいます。

耐震性能は阪神大震災の1.5倍の揺れにも耐え得る設計で、断熱性能も最高レベルを目指しています。また、深夜電力を利用した蓄熱式の床暖房など実験的な要素も含み、デザインだけに終わらない性能を兼ね添えた住宅です。テーマは北欧モダンの温かみのある家。居心地が良くついうウトとしてしまう家となりました。

右：ダイニングは天井高さを抑え、キッチン・リビングと一体の空間でありながら“場”が生まれています。周囲に手軽に利用出来る収納を配する事で子供の宿題スペースになる予定です。

左：キッチンからは視線がゆるやかに繋がる。北欧アンティークの家具を設計時からコーディネートし、空間の要素として重要な役割を与えている。



1：ガラス張りの浴室は洗面室やテラスと一体となって広々とした雰囲気です。昼間は陽光が差し、外部に広がり、夜は光量をコントロールした寛ぎの空間へと変化します。

2：家事動線を考慮した洗濯スペース。畳む為の台や仮掛けハンガー付き。

3：朝の目覚めに気持ちの良い洗面室。間接光を取り入れとても明るい

4：お気に入りのカップアンドソーサーを飾る飾り棚。

5：ウォークインクローゼット以上の機能性を追及した寝室収納。網かごが前後で二段になっており季節によって丸ごと交換できる仕組み。

6：キッチンサイドのスライド収納。前後で用途を変えて収納可能。

7：おかえり収納。ランドセルや子供の勉強道具やコートなども収納する予定。

8：アンティーク家具を利用したシューズボックス。ハンカチやティッシュ、印鑑なども収納。



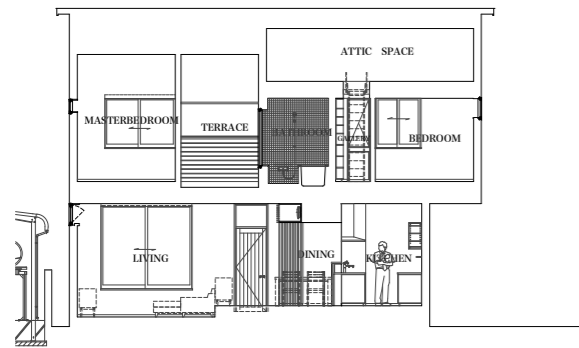
室内を美しく保つ為には収納方法をキチンと考えて置く必要があります。一箇所に集約するのではなく適材適所に収納スペースを配置し、収納のあり方によってその場の質を変える様にしています。家族のライブラリーやお帰りの収納は子育てを想定して願いを込めて作ったもの。小部屋に引籠もることなく家族と触れ合い明るい家庭を築けるように考えています。学習塾や私立の幼稚園。子供の教育にお金を掛ける親は多くいますが、私は同じくらい家造りも重要だと思っています。



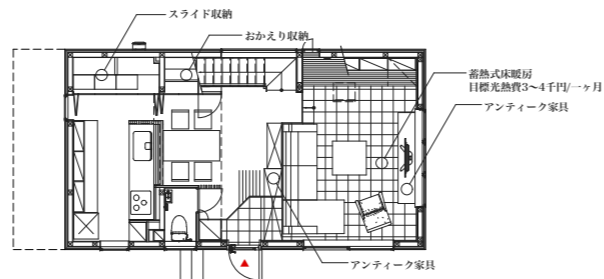


- 1: リビングの一面にある書斎コーナー。文字通り父の背中を見て子供は育つ事になる？
- 2: あいさつ玄関。玄関からリビング・ダイニングが一望。必ず家族と顔をあわせる重要な場です。
- 3: 主寝室。寝室は絨毯敷きで勾配天井のリラックスした空間。
- 4: 家族のライブラリー。子供室の脇に設けられた本棚は家族全員の趣味が溢れ、互いに影響を与え合う。
- 5: 家具に見立てて作られた洗面台。壁と床に設けられたゆとりのスペースが利いている。
- 6: 将来の子供部屋は仕切らずがらんどうのまま。これから生まれる子供達の成長に合わせて変化する。

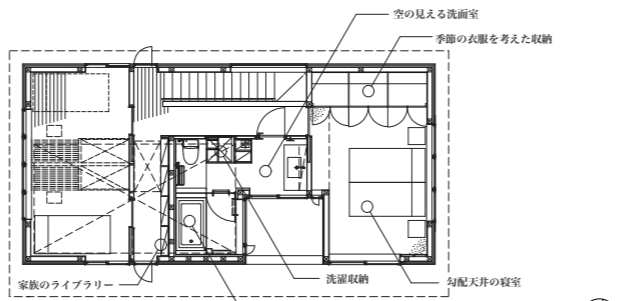
夫婦が好きな北欧のテイストでまとめられたインテリア。都心にいながらリゾート気分を満喫できる落ち着いた雰囲気、温もりのあるmy homeが完成しました。



Section 1:200



2.nd Floor PLAN 1:200



1.st Floor PLAN 1:200

Data

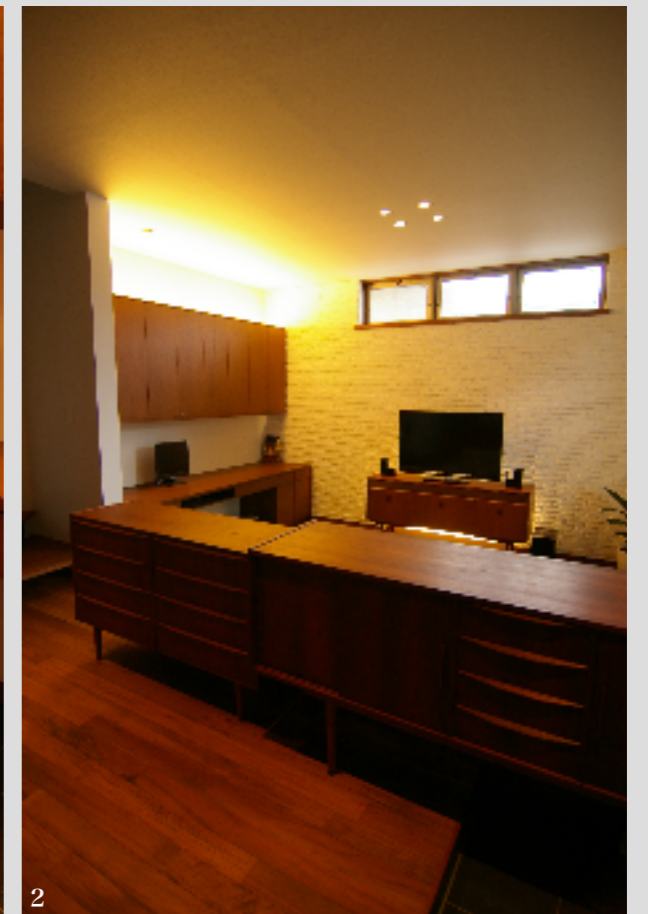
1.st : 6.29㎡
 2.nd : 3.12㎡ (テラス3.98㎡含む)
 Total : 99.41㎡ ()

敷地面積: 112.73㎡
 建蔽率: 47.12% < 80%
 容積率: 89.19% < 240%

構造: 木造SE工法2階建て
 断熱: 外張り断熱工法+充填断熱付加
 防火: 準耐火構造

外壁: 軽量モルタルリシン吹付け仕上げ
 一部ウエスタンレッドシダー貼り
 屋根: カラーベスト・コロニアルグラス
 開口部: アルミサッシ・木製扉
 床: チーク無垢フローリング、一部玄昌石
 絨毯、タイル貼り
 壁・天井: ルナファーザーAEP塗装、一部タイル、木等
 設備: ヒートポンプ蓄熱式床暖房
 住宅用スプリンクラー 等
 家族構成: 夫・妻

施工: 株式会社参創ハウテック
 施工期間: 2008.9~2009.3



低コストで省エネルギーの蓄熱床暖房

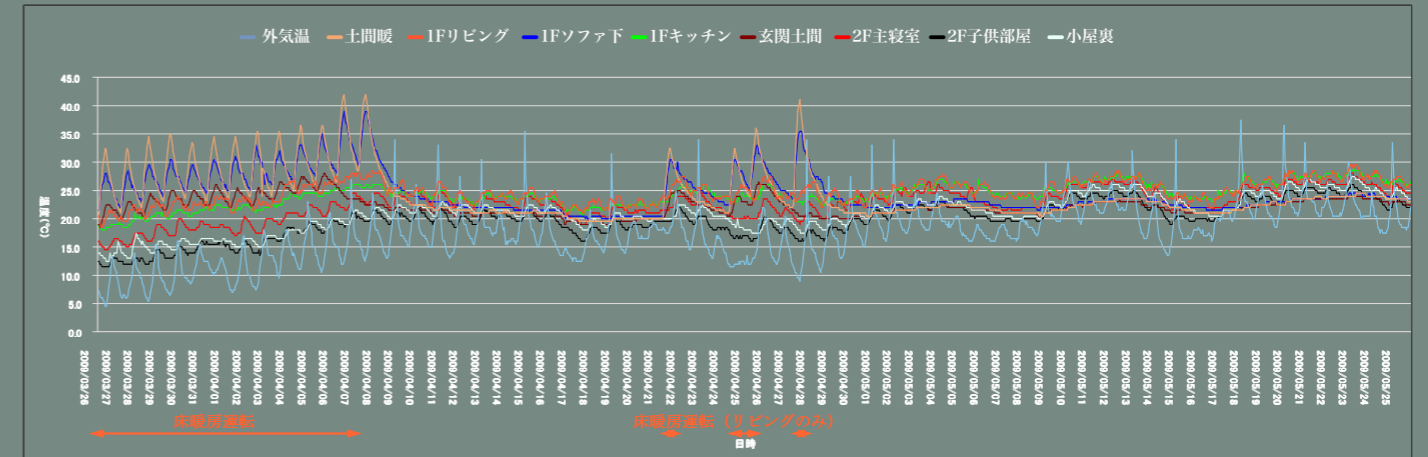
冷暖房が効きづらいオープンプランニングの弱点を克服する為、蓄熱式の床暖房を取り入れました。

具体的には、エネルギー効率の高いヒートポンプ熱源を利用し、かつ深夜電力にて1階の土間コンクリートに蓄熱する事で投入エネルギー（電気料）の10倍近くの熱を利用する事を可能としています。

断熱性能を次世代省エネ基準に準じ高断熱気密住宅とし、夜間蓄えた熱をじんわりと放出する「低コスト・省エネルギーで快適な住環境」の実現を目指しています。

実際には外気温により効率が変化するので、運転効率も計算値より下がるとは思われますが、一年を通じてデータ計測をし、蓄熱式でない母親の世帯との比較をし、住みながら実験を行って行く予定です。

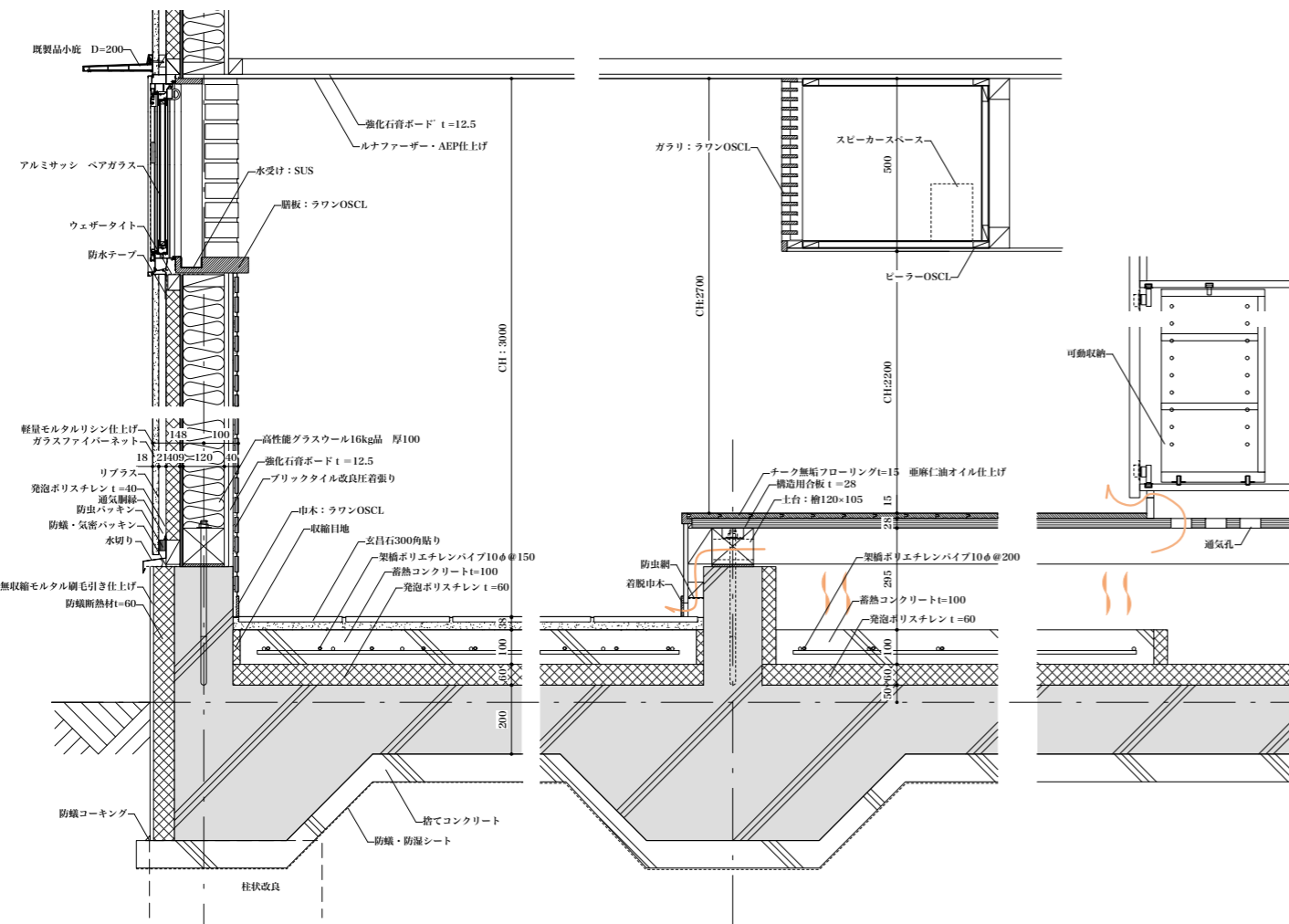
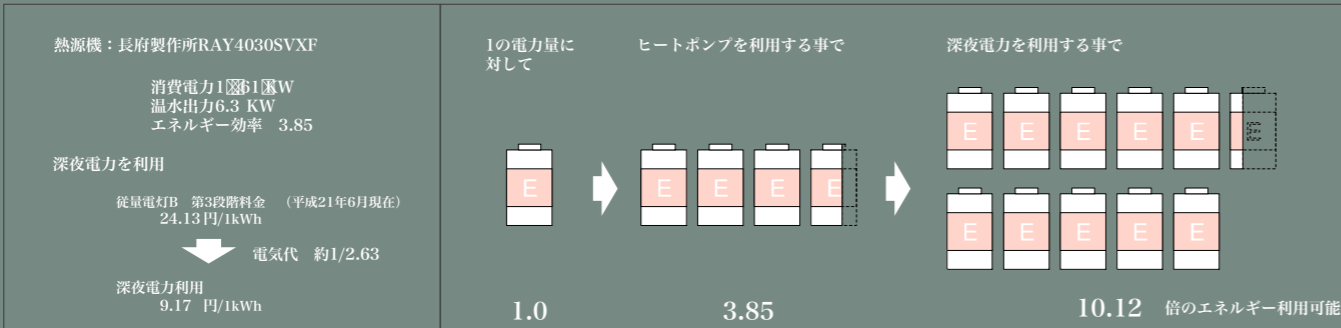
温度変化グラフ (3/25~5/25)



蓄熱暖房を運転すると2~3時間遅れて室温が上昇し20°C~30°Cの室内環境を維持しています。

計測し始めた当初は、蓄熱コンクリート自身が冷え切ってしまった為、正確なデータは出ておりません。

しかし、土間からの輻射熱の効果は快適そのもので、全室間仕切りを開け放して生活していても寒いと感じる事はありませんでした。夏場の蓄冷はシステムとしては考えておりませんが、主寝室の冷房がこのヒートポンプを使って運転する事が可能で、深夜電力を利用し低コストで運転することが出来ます。



蓄熱床暖房詳細図 1:20



玄昌石の敷き詰められた蓄熱式の土間リビング。冬はほんのり夏ひんやりと気持ちが良い。



計測に用いるボタン電池大のデータロガーと放射温度計



蓄熱用の温水パイプを敷き並べた状態。土間スペースと他では配管のピッチを変えている。

Akatuki Design

<http://akatuki.moo.jp/index.htm>

<http://blog.goo.ne.jp/akatuki-design>